

## 「課題本」を肴に議論

case 2  
1冊の本を  
みんなで読む

優れたビジネス書を読んでも、自分の仕事や生き方に反映できなければ意味がない。1冊の本について語り合うことで、自身に置き換えて考えてみる癖がつく。そして、他人に向けてアウトプットすることで、使える知識が身につく。

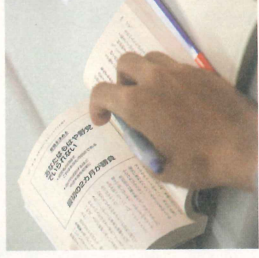


この日の  
課題本



### 東京アウトプット勉強会

2006年から続く日本最大の読書クラブ「名古屋アウトプット勉強会」の主幹者、山本多津也さんが、2009年2月に東京本部を充足させた。毎月1回、課題本（ビジネス書）について語り合う入会はミクシイ内のコミュニティに登録するか、メールで問い合わせを。2009年11月には、文学の読書会「文学サロン月曜会」東京支部を充足させた。こちらの会も、現在の会員数は約500人にまで増加。連絡先はnekomachiclub@gmail.com



約10人ずつ分かれたチームに、ファシリテーター役が1人つき、参加者全員が本の感想を発表する。本には付箋が貼られているいたり、線が引かれていたり、ノートに感想をまとめていたりするなど、事前準備をしっかりとっている人が目立つ。読書会の開催後、著者を呼んで講演会を開くこともある。

「どんなに素晴らしいビジネス書を読んでも、一度読んだだけで内容を忘れてしまう。本の感想を口にし、議論すれば、本から得た知識を自分の中に深く落とし込める」。そう話すのは、読書クラブ「東京アウトプット勉強会」を主宰する山本多津也さんだ。

名古屋で住宅リフォーム会社を営む山本さんは4年前、友人と4人で読書会を始めた。その後、「ミクシイ」を使い出したところ会員が増え、現在は約4300人に。昨年、東京本部のコミュニティも作り、1300人が登録する。

毎月1回開かれるこの読書会の人気の秘密は、「課題本の必読」という参加ルールにある。課題本は、なかなか読む気になれない手強いビジネス書ばかり。だが、毎回参加すれば、こうした本を半強制的に年間12冊読むことになる。

取材をした日、東京駅そばの貸し会議室には、20代から50代ぐらいのメンバーが集まった。最近では毎回、150人以上が参加し、10名位ずつのチームに分かれて議論をする。取材時の課題本は三枝匡氏の『V字回復の経営』。5つの企

## ビジネスに効く!「旧約聖書」

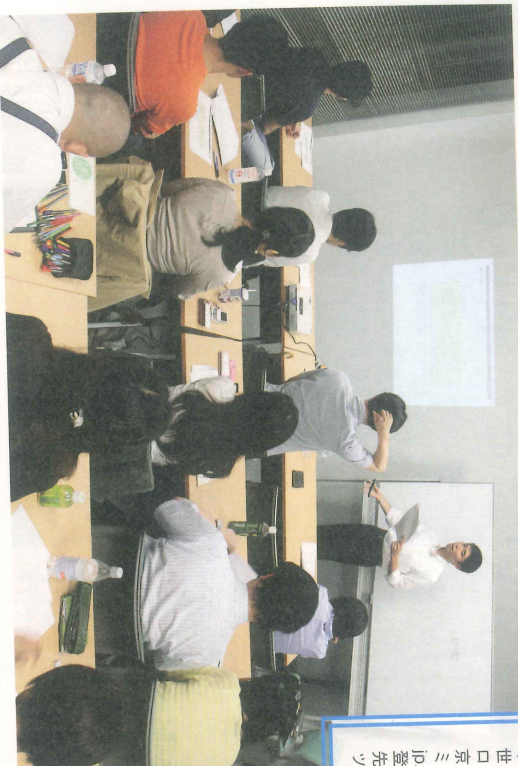
19年に発売された。旧約聖書をキーワードに、世界を動かす人々の特徴を学ぶ。毎月2回程度、東京・丸の内、日本橋の2カ所で開催。入会料は3万円。申し込みは[http://imixi.jp/view\\_community.php?id=38988580](http://imixi.jp/view_community.php?id=38988580)に連絡するか、メールで連絡を。メールの連絡先は[kazu@continental-breakfast.net](mailto:kazu@continental-breakfast.net) ツイッターのハッシュタグは、#kyuyaku



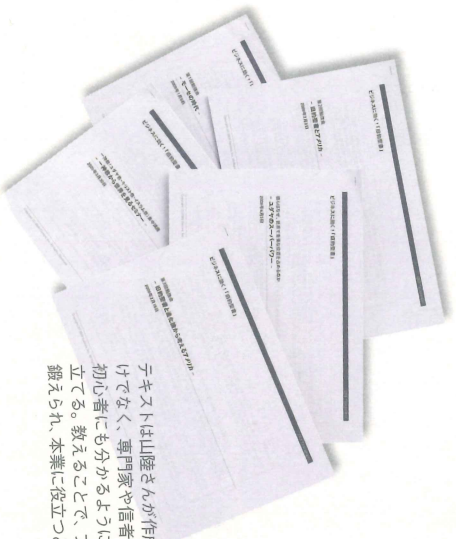
客観的な視点から世界的宗教的背景を学べば、世界各地で起こっている現象がより理解しやすくなる。ちなみに山陸さんは無宗教。

業再建に携わった著者の実話を基に、社内で起る問題とその解決策をちりばめたツイットで、感想を言い合ううちに、異業種の仕事の仕方が分り、自分の意見とは違う視点に刺激を受ける。「オメガな会社ほど危機感がない会社。部下に読ませたい」と話し、20代女性は「主人公のようにしてくれると、部下の心も動く」

本<sup>だ</sup>、<sup>あ</sup>き、<sup>み</sup> 山陸さんが作成する。ツイットに話を聞き、専門家が信者に話を聞き、初心者にも分かるように内容を組み立てられ、本業に役立つという。



この日の講義テーマは「ユダヤ人について」。講義内容を「ツイットでシェア」にまとめる参加者もいた。今後は対談やツイットセッションなど、様々な形式を取り入れる予定だという。



と、感想を披露した。この春、新卒で大手メーカーに入社した男性は、読書会に参加して本の読み方が変わったという。印象深かった個所に線を引き、なぜ自分が共感したのか考える。個人レベルでできる解決策を模索しながら読み進めるようになった。

### 旧約聖書を通して世界を学ぶ

人は多い」と山さんは語る。

約聖書。つまり、世界の617割の人の考え方の根底には旧約聖書があると言える。中でも、世界的政治家が動かす米国金融資本はユダヤ教徒が多いため、旧約聖書を理解すれば世界ニエイスの見方も変わる」と、IRプロデュース1で主宰者の山陸一幸さんは語る。知識がない人でも気軽に参加できるように、「旧約聖書とアメリカ」ユダヤ人がなぜ世界で重要な位置を占めるのか」など毎回テーマを決め、講義形式にした。「イスラム教基礎講座」はイスラム教徒が講師を務めたが、ほとんどは山陸さんが教える。参加者が満足できる講義にするために、事前準備は人念に行うと言う。

「本から得る知識だけでなく、休日<sup>に</sup>に専門家や信者に会い、疑問点を一つひとつ潰していく。アクトアクトするために、インプットはそれの10倍以上の時間と労力をかけている。一番喜ばせてもらっているのは自分かも」講義形式だが、質疑応答の時間はもちろん、講義中でも、参加者からの質問や意見が自由に飛び交う様子が印象的だった。